

令和7年度

シラバス

海洋科 (K)

3年3組

福島県立小名浜海星高等学校

< 観点別評価・評定の算出方法 >

- (1) ①～③の観点別評価は、それぞれを100点満点とし、以下の到達度に応じて観点別評価をします。

観点別の点数	評価
72.6 ～ 100	A
37.6 ～ 72.5	B
0 ～ 37.5	C

- (2) ①～③の観点別の点数を合計(300点満点)し、3で割った点数が評点となり、5段階評価に使用されます(小数点以下四捨五入)。

- (3) 以下の表に基づいて評点から評定を算出します。評定「1」は欠点となり、単位不認定となります。

評点	評定
80 ～ 100	5
65 ～ 79	4
45 ～ 64	3
30 ～ 44	2
0 ～ 29	1

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2
対象クラス		K3年3組		授業担当者	中隅利恵・浅川康夫

1 授業の内容と目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	定期考査、小テスト、授業態度
②	思考・判断・表現	60%	40%	定期考査、小テスト、授業態度、提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	小テスト、授業態度、提出物

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
対象クラス		K3年3組		授業担当者	深谷 恵子

1 授業の内容と目標

- (1) 近現代の歴史の展開を日本と様々な地域の関連性や地理的条件と関連付けて考察する。
- (2) 国家間の対立がおこる過程と経過を多面的・多角的に考察し、国際関係の変化を理解する。
- (3) 戦後の復興の過程と現代の国際社会の諸課題について学び、課題解決に向けて自ら探究する。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	70%	30%	定期考査・単元テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	70%	30%	定期考査・単元テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	定期考査・単元テスト・授業態度・提出物

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	2
対象クラス	K3年3組		授業担当者	安島 久美子	

1 授業の内容と目標

- (1) 指数関数と対数関数：指数を整数へ広げた指数法則を理解し、桁数に関する対数について学びます。計算ができ、グラフがかけ、方程式・不等式が解けることが目標です。
- (2) 微分：微分係数や導関数の意味について理解し、関数の増減、極大・極小を調べたり、グラフをかいたりできるようにします。
- (3) 積分：積分について学び、直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積の求め方について学びます。面積の計算ができるようになることが目標です。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	定期考査、小テスト、ワークシート
②	思考・判断・表現	70%	30%	定期考査、小テスト、ワークシート
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	ノート、行動観察、発表、自己評価

教科	保険体育	科目	体育	単位数	3
対象クラス	K3年3組		授業担当者	清水・蛭田	

1 授業の内容と目標

陸上競技、体づくり運動、球技、水泳、ダンスなど様々な運動を通して楽しさや喜びを味わう授業です。次のことを目標とします。

- (1) 約束事やルールを守る態度の確立
- (2) 健康・安全に気をつけて、仲間と協力して、自己の役割を果たす態度を育てる
- (3) 体の調子を整え、体力の向上を図る
- (4) 生涯を通して継続的に運動ができる資質を養う

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	学習カード、スキルテスト、授業態度
②	思考・判断・表現	0%	100%	学習カード、授業態度
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	学習カード、授業態度

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション II	単位数	2
対象クラス		K 3 年 3 組	授業担当者	小森貞子	

1 授業の内容と目標

- (1) 新しい表現を学び、まとまった長さの英文を読んで（聞いて）内容を理解し、英語で自分の考えや気持ちを英語で話したり書いたりすることができる。
- (2) 新たに学んだ表現を用い、英語で自分の考えや気持ちを相手に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解した上でやりとりができる。
- (3) 世界中の様々な事象や人物に関する英文に触れた上で、自分自身の考えや住んでいる地域の特性と関連付け、学んだ表現を用いて自分自身や自分の住んでいる地域について英語で発信できる。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	20%	80%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物

教科	水産	科目	課題研究（一海特）	単位数	1
対象クラス	K3年3組		授業担当者	手代森	

1 授業の内容と目標

- (1) 第一級海上特殊無線技士の英語を主に学習します。通信英語に使用される通信符号や緊急信号、呼出応答の方法や一般通信方法など、英語での通信を円滑に行う方法について学びます。（知識・技術）
- (2) 位置通報や緊急通信については、教科書に掲載された通信文例と全く同じ状況は存在せず、その時・その状況に応じて考えながら通信しなければならないため、自分が伝えたいことを間違いなく伝えられるよう基本と応用をしっかりと定着させられるようにしてください。（思考・判断・表現）
- (3) 教科書に掲載された通信文例を声に出して読んだり、隣の席同士で通信の練習を行うなどの学習を多く取り入れます。しっかりと声を出して良く読み、少しでも自分の通信技術を向上させられるよう前向きに取り組んでください。（主体的に学習に取り組む態度）

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	確認テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	0%	100%	確認テスト・授業態度
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	確認テスト・授業態度

教科	水産	科目	課題研究（イノベ）	単位数	3
対象クラス		K3年3組		授業担当者	坂田了 伊東嘉己

1 授業の内容と目標

- (1) 養殖の社会的意義や役割など体系的・継投的に理解し、より専門知識及び技術を身につけます。
- (2) 養殖産業に関する諸課題を発見し、現状とのギャップを明確にしたうえで、実効性の高い解決策を見出せる力を養います。
- (3) 持続可能な養殖業を目指し、地域や社会に貢献する主体的・協調的な態度を養います。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	実習態度、実習中の発問
②	思考・判断・表現	0%	100%	実習態度、実習中の発問
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	実習態度

教科	水産	科目	課題研究・小型船舶（学科）	単位数	3
対象クラス		K3年3組		授業担当者	根本大士

1 授業の内容と目標

- (1) 小型船舶の安全で適切な操船について実践的な学びを通して知識を理解するとともに、それに関連する技術を身に付けます。
- (2) 1・2年次で学んだ「航海・計器」及び「船舶運用」の基礎を復習しながら、二級小型船舶操縦士の国家資格の教習を行い、修了試験に合格し資格取得を目指します。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	定期考査・小テスト・レポート・授業態度
②	思考・判断・表現	60%	40%	定期考査・パフォーマンス課題・授業態度 ノートへの記述
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・自己評価 ※①と②の観点の状況を踏まえて評価

教科	水産	科目	課題研究・小型船舶（実技）	単位数	3
対象クラス	K3年3組		授業担当者	馬上 久野 浅野	

1 授業の内容と目標

- (1) 小型船舶の取扱いについて理解する。
- (2) 基本操縦（安全確認、発進・直進・停止、後進、変針・旋回・連続旋回）を出来るようにする。
- (3) 応用操縦（人命救助、避航操船、離岸・着岸）を出来るようにする。
- (4) トラブルシューティングを理解する。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	実技テスト
②	思考・判断・表現	0%	100%	実技テスト
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	実技テスト

教科	水産	科目	漁業	単位数	3単位
対象クラス	K3年3組		授業担当者	坂田了・伊東嘉己	

1 授業の内容と目標

- (1) 漁業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけます
- (2) 漁業に関する課題を発見し、漁業生産に関する者として合理的かつ創造的に解決する力を養います。
- (3) 漁業における生産性の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	定期考査・小テスト・レポート・授業態度
②	思考・判断・表現	60%	40%	定期考査・パフォーマンス課題・授業態度 ノートへの記述
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・ノートへの記述 ※①と②の観点の状況を踏まえて評価

教科	水産	科目	航海・計器（航海）	単位数	2
対象クラス		K3年3組		授業担当者	根本大士

1 授業の内容と目標

- (1) 船舶に必要な各種航法や航海計器といった航海のより専門的な内容を定着するとともに、それらに関連する課題発見力に磨きをかけ、合理的かつ創造的に解決する力を向上します。
- (2) 航海に必要な各種情報の収集や整理の重要性を理解し、船舶の安全かつ適切な航海を実現できるように自ら学び、国家資格である海技士を解けるだけの知識や技術を習得します。
- (3) 水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を適宜行いながら、漁船等の船舶を航行させるために必要な資質・能力の育成を目指します。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	50%	50%	定期考査・小テスト・レポート・授業態度
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考査・パフォーマンス課題・授業態度 ノートへの記述
③	主体的に学習に 取り組む態度	0%	100%	授業態度・自己評価 ※①と②の観点の状況を踏まえて評価

教科	水産	科目	航海・計器（海図）	単位数	2
対象クラス		K3年3組		授業担当者	久野 文教

1 授業の内容と目標

- (1) 2年次で学んだ作図の基礎を復習しながら、四級海技士（航海）に頻出問題である「両測方位法」と「流潮航法」の2問をメインとして学習していく。
- (2) 2単位の授業なので週2時間の授業となる。そのため、2単位（年間70時間）の1/5（14時間）欠時を越えると未履修となり、不認定になる。欠席が連続で続くとすぐに欠時数が増えてくるので十分注意が必要である。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	・考査・小テスト・授業内での発言等
②	思考・判断・表現	60%	40%	・考査・小テスト・授業内での発言等
③	主体的に学習に 取り組む態度	0%	100%	・授業への取り組み・授業準備・提出物

教科	水産	科目	航海計器（天文）	単位数	1単位
対象クラス	K3年3組		授業担当者	坂田 了	

1 授業の内容と目標

(1) 天文航法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	小テスト・レポート・授業態度
②	思考・判断・表現	0%	100%	パフォーマンス課題・授業態度 ノートへの記述
③	主体的に学習に 取り組む態度	0%	100%	授業態度・ノートへの記述 ※①と②の観点の状況を踏まえて評価

教科	水産	科目	船舶運用（運用）	単位数	2
対象クラス	K3年3組		授業担当者	久野 文教	

1 授業の内容と目標

(1) 海上気象の基礎や日本近海の気団や全船を学び理解します。

(2) 操船の基本・応用操船・荒天運用・海難と応急について学び、知識や技術を身に付けます。

(3) 船舶の安全航行に活用する知識や利用法を学び、海上業務に活用する能力と態度を育みます。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	・考査・小テスト・授業内での発言等
②	思考・判断・表現	60%	40%	・考査・小テスト・授業内での発言等
③	主体的に学習に 取り組む態度	0%	100%	・授業への取り組み・授業準備・提出物

教科	水産	科目	船舶運用（属具）	単位数	2
対象クラス	K3年3組		授業担当者	伊東 嘉己	

1 授業の内容と目標

- (1) 船舶の概要や船舶の設備について名称や意義を学ぶ。
- (2) 船舶の常用に供するために船舶に附属するが、独立の存在として権利の客体となる物について知識を身に付ける。
- (3) 船舶の安全な運用や保守管理につながる知識や利用法を学ぶ。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	・考査・小テスト・授業内での発言等
②	思考・判断・表現	80%	20%	・考査・小テスト・授業内での発言等
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	・授業への取り組み・授業準備・提出物

教科	水産	科目	船舶運用（法規）	単位数	2
対象クラス	K3年3組		授業担当者	梅澤利夫	

1 授業の内容と目標

- (1) 港則法及び同法施行規則に関する法律を理解し、活用できるようにする。
- (2) 船舶運用で用いる諸法規について理解し、活用できるようにする。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	70%	30%	定期考査、小テスト
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考査、宿題等
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業に取り組む態度（発言）、提出物